

富士山かぐや姫ミュージアム
Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

博物館だより

2020
8.31

76
号

赫夜—かぐや—

令和2年9月19日（土）～10月18日（日）

学芸員によるミュージアムトーク（無料）
9月21日（月祝）、9月22日（火祝）、10月10日（土）
各回13時半（先着10名）、講座室にて解説、15分前より受付



富士参詣曼荼羅の世界
—松栄寺本を中心にして—

愛知県常滑市松栄寺ご所蔵の松栄寺本「富士参詣曼荼羅」は、縁あって平成28年から当館がお預かりしています。貴重な資料を次世代へ残したいというご住職のお考えから、令和元年、公益財団法人住友財団の文化財維持・修復事業助成を受け、根本修理をおこない、この度皆さまにご披露する運びとなりました。

本展では、松栄寺と富士山との関わりを踏まえつつ、松栄寺本「富士参詣曼荼羅」に描かれている内容を紐解いて参ります。修理前のレプリカとあわせて修理工程もご紹介し、文化財修理の技術の一端をご覧いただくことで、文化財を守る大切さに触れていただく好機となれば幸いです。

(高林 晶子)

トピックス

春のテーマ展

揺する！富士市のお天王さん

展示会報告

(展示期間：令和2年3月20日～6月21日)

春のテーマ展では、富士市内各地で毎年行われるお天王さん(天王祭)を紹介しました。新型コロナウィルスの影響で休館やイベント中止など、来館者数も少ない中での開催であったため、本紙で簡単にご紹介したいと思います。

お天王さんとは

お天王さんの「天王」とは、祇園精舎の守護神とされる「牛頭天王」を指します。牛頭天王は病気を運び込む行疫神ですが、お祭りをすることで病気の流行を防いでくれる防疫神に変わるとされ、主に無病息災を願って天王祭(祇園祭)が行われています。現在は、明治政府による神仏分離政策から、牛頭天王ではなくスサノオを主祭神として祀るケースが多いです。

天王祭は全国的に見られる行事ですが、江戸時代末期から明治期にかけて、コレラという疫病が流行して多くの人が亡くなり、それを鎮めるために牛頭天王を祀ることで爆発的に広まりました。東海地方では、主に津島神社(愛知県津島市)が勧請元となりました。

お天王さんは、旧暦6月14日を縁日としていますが、暦の変わった現在では、6月14日や、月遅れの7月14日に合わせ、その前後の土・日曜日に行う地域が多いようです。

吉原祇園祭

富士市吉原の商店街周辺は東海道吉原宿だった場所です。現在、この周縁町内の氏神社6社の氏子町内が合同で、毎年6月中旬の土・日曜日に「吉原祇園祭」を行っています。山車・屋台計21基が引き回され、多くの人が訪れる賑やかな祭りです。

各町内で神輿を担ぎますが、ここでの神輿には主に二つの特徴があります。一つは、担ぎ手がリズムよく跳ねて神輿を上下に揺する点です。お天王さんは荒っぽい神様ということで、神輿を激しく揺することでご利益を高めると考えられています。もう一つは、筐の束が大量に神輿にくくりつけられている点です。筐が危を払うと考えられており、町内によっては、神輿か



富士市お天王さん分布図

ら筐を引き抜いて、家の玄関などに飾って厄除けにするという風習もあります。

吉原の天神社で使用する神輿は、安政5年(1858)9月に造られたものです。実はこの年の7月に、コレラが吉原で蔓延して多数の人が亡くなりました。コレラを鎮めるために、吉原で臨時的に神輿を造ってお祭りをしたようです。これが年中行事化して、現在に至ったと考えられます。

富士市内のお天王さん

富士市内では大多数の地区でお天王さんが行われます。多くは神輿を揺するものですが、その他にも神輿を傷めつけたり、筐の有無の違いや、神輿以外の祀り方など、さまざまな形で行われます。

例えば、吉永地区では、神輿の担ぎ棒の先端を地面につけて、そのまま一気に駆け抜ける「地もぐり」をしたり、担ぎ棒を故意に折ったりします。原田地区では家の中に神輿を入れて揺すったりします。また、



須津地区や元吉原地区のいくつかの町内では、神輿とは別に、「麦わら天王さん」「飾り天王さん」などと呼ばれる仮設の祠を設置して、屋根を麦わら葺きにして祀ります。これは沼津市などでオスズミなどと呼ばれるものと同様です。

このように、各地でさまざまな形態で行われますが、図のように市域の主要街道に沿って類似した傾向が見られ、その分布が分かります。

医療が十分でない時代は神に祈ることで不安を解消しました。現代は、科学的な対策をとることが重要ですが、やはり、人々の気持ちを和らげるお祭りは大切です。今年はほとんどのお天王さんが中止となりましたが、また平時に戻ったら、再び各地で祭りを盛り上げ、個性豊かな地域の活性として伝承されていくことを強く願います。

(秋山 裕貴)

夏のテーマ展

「富士山の女神 かぐや姫」

(展示期間：令和2年7月11日～9月6日)

「富士山に帰るかぐや姫の物語を展示する 世界でただひとつのミュージアム」。これは当館が平成28年度のリニューアル以降キャッチコピーとしている言葉です。

一般に知られる古典『竹取物語』では、かぐや姫が最後に月に帰るというお話ですが、富士市に伝わるかぐや姫の伝説は、月ではなく富士山に帰るというもので、かぐや姫は富士山の神様だったという、独特なストーリーとして近年注目を集めています。

昨年秋にテレビ番組の取材で、人気お笑い芸人「銀シャリ」さんが来館され、富士市のかぐや姫伝説についてご紹介しました。大変興味深く聞いてくださいました。銀シャリさんが当館を出たあと、出会った市民の方に、富士市のかぐや姫が富士山に帰ったことを知っているかと尋ねると、知らないという方ばかり。多少の演出もあるうかと思いますが、まだ周知が不足していると痛感しました。

そこで、夏のテーマ展では、改めて「富士山の女神 かぐや姫」を分かりやすく伝える展示として、富士山縁起をはじめとする諸資料を紹介しています。テーマ展は9月6日までですが、常設展示でも紹介していますので、是非当館にお越しいただき、富士市のかぐや姫伝説を知って、他市他県の方にもお話していただけたら幸いです。

(秋山 裕貴)

富士山かぐや姫ミュージアム 公式YouTubeチャンネルOPEN!!

動画投稿サイトYouTubeを活用し、富士市の歴史、展示解説、こどもふじかぐミュージアムと題して、小学生向けの補助教材動画などを紹介しています。

富士山かぐや姫ミュージアム公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCdgokVr9nMYzTOYbrk9PwwQ/>



展示会のご案内 / トピックス

展示室② 富士山の玉手箱

岡田紅陽富士山写真展

令和2年9月5日(土)～12月13日(日)

新潟県中魚沼郡中条村(現十日町市)で生まれた岡田紅陽(1895～1974)は、名を賢治郎といい、代々書画に秀でた家系に育ちました。早稲田大学在学中にカメラと出会って以来、河口湖、山中湖など富士山周辺に足しげく通い、富士山写真家の第一人者として活躍しました。

新型コロナウイルス感染症対策として富士登山がままならない2020年、当館コレクションの中から、60年から80年ほど前に撮影された岡田紅陽の富士山写真をご紹介し、あらためて富士山の魅力を実感していただくことを目的に開催します。
(高林 晶子)



山波

昭和10年(1935年)1月17日撮影

葛城山(現伊豆の国市)

伝法古墳群出土資料が全国へ

文化庁主催の「発掘された日本列島2020」展に富士市指定文化財となっている中原第4号墳や東平第1号墳を含めた伝法古墳群の貴重な資料が出展され、全国に富士市の文化財が紹介されています。

伝法古墳群とは、富士山南麓を流れる伝法沢川、石坂川の間に作られた6～7世紀の古墳をまとめてここではよんでいます。河川の周辺には、80基以上の古墳が存在していたことが現状分かっています。この古墳群の調査では、全国でもわずかしか出土事例のない東平第1号墳出土の丁字形利器を含む武具や、国久保古墳出土の雁木玉などから富士山南麓地域の開発を指揮した歴代の個性豊かな首長たちの姿や渡来人との関わりがわかってきてています。

富士市ではこの他にもまだ多くの資料が、見つかっています。機会があれば是非、博物館で富士市の原始・古代の歴史を感じてみてください。

(成瀬 陽介)

富士山型フェイスシールド

ご寄贈いただきました！

6月2日(火)に市民の松尾啓子様より富士山型フェイスシールドをご寄贈いただきました。

主催講座などで使わせていただいている。



ふじかぐちゃん灯籠

ご寄贈いただきました！

8月21日(金)に有限会社増田製作所様よりふじかぐちゃん灯籠をご寄贈いただきました。

展示室3(富士山とかぐや姫)にて、皆様をお迎えいたします。



富士山かぐや姫ミュージアム 赫夜 -かぐや-

発行年月日 令和2(2020)年8月31日

編集・発行 富士山かぐや姫ミュージアム

Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

印 刷 株式会社文光堂

住 所・連絡先 〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2 TEL.0545-21-3380 FAX.0545-21-3398

HP. <https://museum.city.fuji.shizuoka.jp/> E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

開館時間 4月～10月 9:00～17:00 11月～3月 9:00～16:30

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12/29～1/3(年末年始)

※12/15～12/27まで本館のみ臨時休館

歴史民俗資料館(分館) 開館時間・休館日は本館に同じ

博物館屋外展示(ふるさと村) 休館日なし すべて観覧無料

博物館だより
No.76



タイトルの「赫夜 -かぐや-」は、富士山のかぐや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」(当館蔵)に登場する「赫夜姫」からとっています。